

佐賀の果樹5月号 今月の管理（病虫害防除）

この時期は植物の生育もどんどん進みます。特に今年は5月の気温はやや高めと予想されており、普段よりも早く生育が進む可能性があります。また、気温が高くなると害虫の発生が早くなります。気象や圃場の状態を観察しながら早めの準備を心掛け、適期に病虫害対策が行えるようにしましょう。

<果樹類全般>

○果樹カメムシ類

平成30年3月12日に佐賀県農業技術防除センターから発表された病虫害対策資料第16号によると、チャバネアオカメムシの越冬量は前年および平年より多いとなっています。越冬量が多い場合は、前期（4月～8月上旬頃）の発生量が多くなる可能性が高いため、発生状況に注意し、防除を行ってください。

<ハウスミカン>

○ミカンハダニ

収穫2か月前を目安にダニコングフロアブル2,000倍やバロックフロアブル2,000倍などを散布しましょう。完全着色期以降の園では、ダニエモンフロアブル4,000倍または粘着くん水和剤500倍を散布します。散布ムラがないよう、丁寧に散布してください。

○アザミウマ類

ハウス内への侵入を防ぐため、ハウスサイドにアルミ蒸着シートや光反射シート織込ネットを設置しましょう。また、アザミウマは種類によって効果の高い薬剤が異なりますので、トラップ調査を行って種の同定を行ってください。同定方法がわからない場合は普及センター、JA、試験場等に問い合わせてください。

<露地カンキツ>

○開花期前後の病害防除

開花期前後は灰色かび病、黒点病、そうか病の防除時期です。今年は表年傾向であり、花が多くなると予想されています。花が多いときは灰色かび病が多発することが予想されますので、灰色かび病が問題になる園や着花が多い園では満開期に灰色かび病対策の防除を行い、落弁期には灰色かび病、黒点病、そうか病対策の防除を行ってください。

表 露地カンキツにおける開花期前後の防除

散布時期	対象病害	薬剤名	備考
満開期	灰色かび病	フロンサイド SC ストロビードライフロアブル ナリア WDG ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー ナティーボフロアブル	
落弁期	そうか病 灰色かび病 (黒点病)	ストロビードライフロアブル ナリア WDG ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー ナティーボフロアブル	黒点病防除として加用する剤 ジマンダイセン水和剤 + ペンコゼブ水和剤 エムダイファー水和剤

○チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマは5月ごろから10月ごろまで長期にわたって果実を加害します。発生が多い園では5月中下旬にアクタラ顆粒水溶剤 2,000 倍、アドマイヤーフロアブル 2,000 倍等を散布して下さい。

<ナシ>

○黒星病

摘果期以降は基本的にはキノンドーフロアブル、ベルコートフロアブル、デランフロアブル等の予防剤を主体に散布します。なお、黒星病の発生が園内で確認されたら DMI 剤であるスコア顆粒水和剤 4,000 倍、アンビルフロアブル 1,000 倍等を直ちに散布して下さい。

また、1つの果そうに多数の果実が着果してしていると、薬剤散布の際に薬液の付着ムラが起きやすくなるとともに薬液や雨滴が乾きにくくなってしまいます。そのため、摘果作業を早めに実施して、薬剤防除を徹底しましょう。

トンネル栽培等で薬剤を散布せずにビニルを除去してしまうと、本病が多発するため、ビニル除去の直前または直後に必ず薬剤を散布して下さい。

○ナシヒメシクイ

ナシヒメシクイ対策として、交信攪乱フェロモン剤を設置します。資材はコンフューザーN とナシヒメコンの 2 種類がありますが、園での害虫の発生状況により選択する必要がありますので、初めて使う場合は指導機関 (JA, 普及等) に相談してください。

交信攪乱フェロモン剤の効果は3~4か月程度持続しますが、ナシヒメシクイに対する直接の殺虫効果はありません。そのため、他所で交尾した雌成虫が園内に侵入した場合には産卵し、被害が発生する可能性があります。また、モモノゴマダラノメイガなどの他の害虫による被害が発生する場合がありますので、園内の害虫の発生状況をよく観察して

随時薬剤による防除を行ってください。

<ブドウ>

○べと病

開花期前後からの防除を徹底します。特にべと病が多発する園（主に露地）では落弁期～果粒小豆大期に浸透移行性の高いリドミルゴールドMZ1,000 倍やベトファイター顆粒水和剤 3,000 倍、ゾーベックエニケード 5,000 倍を散布します。これらの薬剤は薬剤散布後に伸長した葉にも浸透移行する性質があり、新梢伸長期の防除に効果的です。

○晩腐病

露地ブドウなどで、昨年本病が発生したところでは特に防除を徹底します。落弁期から果粒小豆大期にアミスター10フロアブル 1,000 倍等を散布します。散布ムラがないように果房にたっぷり散布すること、棚上からも散布することを心がけてください。ただし、効果の高い薬剤を散布しても、袋の止め口が緩いと雨滴ともに菌が袋内に侵入して感染し、発病してしまいます。雨滴が流入しないように止め口をしっかりと締めてください。

○チャノキイロアザミウマ

アディオンフロアブル 1,000 倍、スカウトフロアブル 2,000 倍、オルトラン水和剤 2,000 倍、ダントツ水溶剤 4,000 倍のいずれかを散布します。特にアディオンフロアブルは果粉の溶脱や果面の汚れが少なく、果実が肥大してからでも使用できるので、生育時期にあわせて薬剤を選択してください。

<カキ>

○炭そ病

炭そ病の枝病斑は非常に重要な伝染源です。新梢に発生していれば早急に取り除いてください。5月上旬にジマンダイセン水和剤 500 倍を散布し、その後、累積 200mm 以上の降雨があれば再散布を行いましょう。樹の上部までたっぷり散布することを十分に心がけてください。

<キウイフルーツ>

○灰色かび病

幼果に付着した花弁に灰色かび病が発生すると、落果したり果実に傷がついたりします。落弁期に、ロブラール水和剤 1,500 倍等を丁寧に散布して下さい。

○かいよう病

5月は葉（斑点症状）や枝（新梢の枯死）に症状が出やすい時期となるため、圃場内を観察し、症状があれば早急に除去してください。除去した枝葉は伝染源となるため、埋没等により適切に処理します。切除等に用いた器具等は 70%エタノールまたは 0.02%次亜塩素酸ナトリウム液で消毒します。防除は、コサイド 3000 2,000 倍（クレフノン 200 倍加用）またはアグレプト水和剤 1,000 倍、カスミン液剤 400 倍等を 6月まで定期的に（1回/

1 か月) 散布します。

ただし、品種によって使用できる薬剤が異なるため、暦や関係機関の指導に従って防除薬剤を選択してください。

○クワシロカイガラムシ

5月にはクワシロカイガラムシの重要な防除時期になります。アプロード水和剤 1,000 倍やスプラサイド水和剤 1,500 倍を散布むらが無いよう、丁寧に散布してください。